

研究公開文書

2018年11月28日

**研究名：妊娠初期の感染性疾患スクリーニングの現状についての
観察研究**

研究の概要：

母子の健康への影響が大きい感染性疾患として妊娠初期にスクリーニングとして行われる、B型肝炎ウイルス(HBV)、C型肝炎ウイルス(HCV)、風疹、梅毒、ヒトT細胞白血病ウイルス(HTLV-1)、子宮頸がん(ヒトパピローマウイルス[HPV]の持続感染に起因)について、妊娠初期のスクリーニング検査結果判明後の疾患予防や健康管理の実施状況とその効果を明らかにするためにデータを収集し、後方視的研究を行う。

本研究により妊娠初期感染性疾患スクリーニング結果の現状を明らかにし、初期スクリーニングが母子の健康増進に及ぼす効果の有用性を検討する。

研究対象：

2014年1月1日から2017年6月31日までの当院での分娩症例で、初期スクリーニングで6疾患の調査項目の検査を行っている症例を対象とする。

研究責任者：

小田原市立病院 産婦人科 丸山康世

研究実施期間：2018年当院倫理委員会許可日-2019年3月31日

連絡先（本施設代表者）：

小田原市久野46 小田原市立病院産婦人科 丸山康世
TEL 0465-34-3175（代表）